

第4章 インフラ・ストックの見学

▼東京都は、事業への理解促進や、社会学習等の一環として、管理する施設を見学やイベント等に開放しています。施設の機能保持等の観点から、常に開放されているわけではありませんが、各種行事等に参加いただくことで、普段は見られないインフラの裏側を知ることができます。

▼誰でも見学が可能な施設の一例をご紹介しますので、是非足を運んでみてはいかがでしょうか。

※水道局が所管する浄水場は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて安全でおいしい水道水を安定給水するため、テロへの対策を強化しています。
そのため、一般公開の浄水場見学は行っていません。

施設名称	所在地	所管局	掲載頁
勝鬨（かちどき）橋	中央区築地六丁目	建設局	80
視察船「新東京丸」	（出航場所）竹芝小型船ターミナル	港湾局	80
神田川・環状七号線地下調節池	杉並区堀ノ内2-1-1	建設局	81
扇橋閘門	江東区猿江1-5-18	建設局	81
スーパー堤防・テラス（隅田川）	中央区、江東区、台東区、墨田区	建設局	82
浜離宮恩賜庭園	中央区浜離宮庭園	建設局	83
TOKYOミナトリエ	江東区青海2-4-24 青海フロンティアビル20階	港湾局	83
水再生センター	都内各所	下水道局	83
羽村取水堰	羽村市羽村東3-8-32	水道局	84
小河内貯水池	西多摩郡奥多摩町	水道局	84

▼東京都技術会議では、インフラ・ストック効果のほか、各事業に関する情報や、インフラ施設のイベント開催情報を集約したポータルサイトを立ち上げました。
適宜、イベントや見学会の開催情報を更新していますので、最新の情報については「インフラポータルサイト」中に掲載されるツアー・イベント情報をご参照ください。



【主なコンテンツ】

- ・ストック効果事例の紹介（事例集が「ウロード」）
- ・ツアーやイベント情報の掲載

URL : <http://www.infura.metro.tokyo.jp/>

勝鬨（かちどき）橋

所在地：中央区築地六丁目

建設局

▼勝鬨橋は、かつて国家的イベントとして予定されていた万国博覧会へのメインゲートとしても利用するために、当時の最先端技術の粋を集めて建造されました。万博自体は戦争の激化により中止となりましたが、橋は昭和15年6月に完成しました。

▼中央が開閉する勝鬨橋は、完成当時は跳開橋として東洋一の規模を誇っていましたが、隅田川を航行する船の減少、交通量の増加などにより、昭和45年11月29日の開閉を最後に、現在では開かずの橋となっています。



<勝鬨橋のライトアップ>

かちどき 橋の資料館【入場無料】

▼かつて橋を開くために使用していた発電所を改修し、勝鬨橋をはじめ隅田川の橋について、貴重な資料や関連情報等を展示・公開しています。



<地図>



<勝鬨橋が開いているところ（昭和26年撮影）>

視察船「新東京丸」

所在地：(出航場所)竹芝小型船ターミナル

港湾局

▼新東京丸は、生活に深く関わる東京港の役割を多くの方に知っていただくために港湾局が運航している視察船です。

▼ガイドのご案内で、ふ頭をはじめとする物流機能の充実や臨海副都心のまちづくり、新海面処分場など、日々、大きく変化している東京港をご覧いただけます。



ご予約は、港湾局ホームページ【視察船「新東京丸」ご利用案内】をご確認ください。利用料は無料でご乗船いただけます。

★運航コース★

	月・水・木・金	火
乗船	竹芝小型船ターミナル	竹芝小型船ターミナル
下船	竹芝小型船ターミナル	青海客船ターミナル

★運航時間★

	月	火	水・木・金
午前	10：00～11：30	10：00～11：15	10：00～11：30
午後	休航	13：30～14：45	13：30～15：00

神田川・環状七号線地下調節池

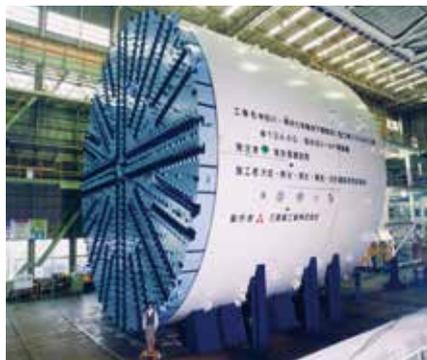
所在地：杉並区堀ノ内2-1-1

建設局

▼神田川・環状七号線地下調節池は、水害が多発する神田川中流域の水害に対する安全度を早期に向上させるため、環状七号線の道路下に、巨大な地下トンネルを建設し、神田川、善福寺川及び妙正寺川の洪水約54万m³を貯留する施設です。



<調節池内部>



<シールドマシン>

▼毎週火曜日及び木曜日（閉庁日除く）の午前10時～と午後2時から見学可能（要予約）

イベント情報

【環七地下の巨大トンネルを体験】

環状七号線の地下約45メートルに直径12.5メートル、長さ4.5キロメートルの洪水対策用の調節池があります。この施設の役割やしきみなどについて、スタッフが現地でも解説します。

開催時期：7月頃

募集人数：200人



扇橋閘門

所在地：江東区猿江1-5-18

建設局

▼扇橋閘門は、江東三角地帯を東西に流れる小名木川のほぼ中央に位置しています。

▼水位が異なる河川を通航可能にした“ミニパナマ運河”と言える施設で、2つの水門に挟まれた閘室と呼ばれる水路の水位を人工的に変動させることにより、船の通航を可能にします。

イベント情報

【首都東京にパナマ運河発見！？】

▼船に乗って水位の異なる河川をつなげる扇橋閘門（小名木川）の通過を体験し、その役割やしきみなどについて、スタッフが現地でも解説します。



開催時期：7月頃

募集人数：70人

スーパー堤防・テラス（隅田川）

所在地：中央区、江東区、台東区、墨田区他

建設局

- ▼スーパー堤防は、高潮や大地震による水害から守るため、東部低地帯を流れる主要河川（隅田川等）において、開発者の協力を得て、開発と一体的に整備を進めている堤防整備事業です。
- ▼コンクリートの防潮堤に変わり、盛土により構成された幅の広い堤防を整備することにより、地震への安全性が向上するとともに、うるおいのある水辺空間が創出されます。



＜新川地区より大川端地区を望む＞
（隅田川スーパー堤防）

- ▼スーパー堤防は、まとまった背後地の開発にあわせて整備するため、整備には時間を要します。
- ▼そこで、スーパー堤防の一部となるテラスを先行して整備し、修景・開放することで、ジョギングや水辺の散歩など、広く都民の方に親しまれています。



＜テラスのライトアップにより夜間景観を演出＞



＜河川空間内に都内初で設置されたオープンカフェ＞



＜上部を修景し水に近い散歩路に＞



＜隅田川パンフレット＞



＜イベントで賑わう隅田川テラス＞

イベント等の情報

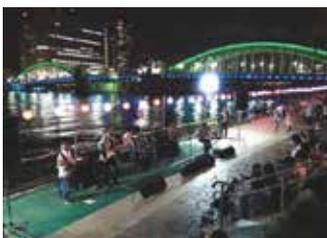
- ▼隅田川では、スーパー堤防やテラスの親水空間を活用した様々なイベントが年間通して行われています。
- ▼規制緩和を活用した取組が進むことで、かつての“水の都”江戸の水辺のにぎわいを取り戻しつつあります。



＜かわでらす＞



＜水面の祭典＞



＜リバーサイドオータムフェスタ＞



＜灯籠流し＞

＜防災船着場を活用した舟運ネットワーク＞



浜離宮恩賜庭園

- ▼浜離宮恩賜庭園は、区部中央部に位置する。歴史・文化・自然を兼ね備えた庭園として、東京の風格ある街並みの形成に寄与するとともに、江戸の伝統文化を伝える東京の観光資源にもなっています。
- ▼昔は徳川將軍家鷹狩の場所でしたが、後に將軍家の別邸（浜御殿）となり、明治3年には宮内省の所管に移り皇室の離宮（浜離宮）となりました。
- ▼昭和20年11月に東京都に下賜され、整備のうえ昭和21年4月有料公開されるに至り、昭和27年11月に国の特別名勝及び特別史跡に指定されています。

所在地：中央区浜離宮庭園

入園料：一般300円、65歳以上150円

建設局



<大泉水>

<松の御茶屋・お伝い橋>

TOKYOミナトリエ



所在地：江東区青海2-4-24

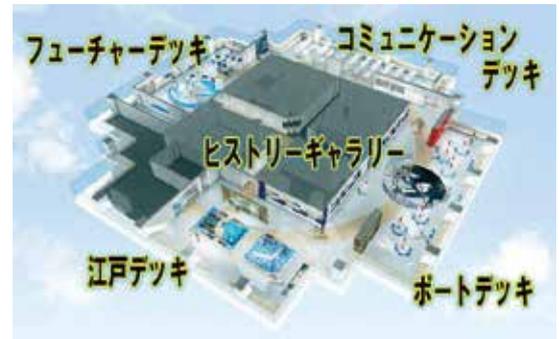
青海フロンティアビル20階

港湾局

- ▼地上100メートルから東京臨海部を望む眺望を活かし、首都圏4,000万人の生活と産業を支える東京港や、国内外の観光客が訪れる臨海副都心などの、歴史・現在の姿・そして未来を紹介する施設です。
- ▼臨海副都心やコンテナふ頭のがントリークーン操作席からの360度の景色、共同溝の内部など、普段体験することのできない場所を、タブレットを使用したA R映像で体感できるコーナーもあります。

開室日：火～木・日 10:00～18:00
 金・土・祝前日 10:00～21:00
 休室日：月曜日、年末年始 12月28日～1月4日
 交通：ゆりかもめ「テレコムセンター駅」徒歩1分

- ★入室無料
- ★団体のお客様は、事前にご予約をお願いします。（他団体様との時間調整のため）
- ★2017年4月28日にオープンした施設です。



水再生センター

下水道局

- ▼水再生センターは、下水道管によって運ばれた下水を処理して、川や海へ放流する施設であり、都内に20か所あります。
- ▼水再生センターでは、土・日、休日、年末年始を除いて見学を受け付けています。



<芝浦水再生センター>

★見学予約及び内容等の詳細について

23区内の水再生センターの場合は、見学受付窓口 03-3241-0944
 多摩地域の水再生センターの場合は、各水再生センターへお問い合わせください。

旧三河島污水処分場唧筒場（ポンプじょう）施設

（三河島水再生センター敷地内）

わが国最初の近代下水処理場として、高い歴史的価値が認められることから、下水道分野の遺構では初めて国の重要文化財（建造物）に指定されました。



羽村取水堰

所在地：羽村市羽村東3-8-32

水道局

▼羽村取水堰は、江戸の急激な人口増加に伴い、市中へ水を供給するために開削された玉川上水の取水口として、1653年に設置されました。多摩川の水は、現在もここから小作浄水場や東村山浄水場に送られています。

▼川の流れと直角方向に鋼製桁を渡し、これに丸太杭をかけ、粗朶（そだ）・筵（むしろ）・砂利等を順に重ねて堰を構成しています。

▼多摩川が増水し、堰を払うときは、桁をつり上げて杭を外すと、粗朶・筵・砂利等と一緒に流されて堰が無くなる仕組みになっています。

▼現在のコンクリート製の投渡堰（なげわたしげき）は、明治42年に築造されましたが、江戸の発展を支えた歴史的価値の高い施設であることに加え、設置当時の投渡し技術が現在まで継承されていることが評価され、土木学会推奨土木遺産に認定されました。



<投渡堰断面図>



<羽村取水堰>



<増水時の投渡堰>

小河内貯水池

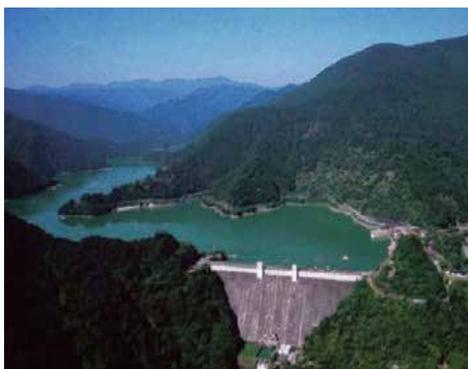
所在地：西多摩郡奥多摩町

水道局

▼小河内貯水池は、東京都の最西部にあって、都心から約65kmの距離にあります。この貯水池は、西多摩郡奥多摩町並びに山梨県北都留郡丹波山村及び小菅村にまたがる貯水池であり、昭和13年に着工し、昭和32年11月に完成した我が国最大の水道専用貯水池です。

▼施設概要

(有効貯水容量) 18,540万m³
 (堤体形式) 非越流型直線重力式
 コンクリートダム
 (堤高) 149m
 (堤頂長) 353m



奥多摩町水と緑のふれあい館

▼奥多摩水と緑のふれあい館は小河内貯水池に隣接しており、奥多摩の自然と歴史、水と自然の仕組み等を分かりやすく知ることができる東京都水道局と奥多摩町の共同施設です。

<施設情報>

- 住所：西多摩郡奥多摩町原5番地
- 開館時間：9:30～17:00
- 休館日：水曜日（水曜日が祝日の場合は翌日）
年未年始（12月28日から1月4日まで）



小河内貯水池の仕組みや役割についてジオラマとガラススクリーンを駆使して分かりやすく説明してくれます。



小河内ダムや水源に関する様々なクイズを楽しむことができます。

Stock Effects in Tokyo
～東京におけるインフラ・ストック効果～

登録番号 (29) 44

平成29年9月 第1版発行
編集・発行 東京都技術会議
事務局 東京都都市整備局総務部企画経理課
(東京都技術会議事務局)
東京都建設局総務部企画計理課
東京都水道局総務部施設計画課
(より良い社会資本の整備と有効活用部会)
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
03-5388-3268 (ダイヤルイン)
印刷 株式会社 雄久社
東京都世田谷区世田谷一丁目24番7号
03-5451-7030



東京都

